あさ・くる

「あさ・くる」は、九州北部豪雨水害後、地域有志と仲間で立ち上げた団体です。
水害によって分断を余儀なくされた地域コミュニティの再生を目的とし、
「100年後の子どもに誇れる故郷づくり」を目指して活動しています。
https://asakuru2017.wixsite.com/asakuru

2020年3月30日発行
デザイン　いのうえしんぢ

あさ・くる
〒838-1521　朝倉市杷木志波2040-2
TEL　090-5477-0322
E-MAIL　asakuru2017@yahoo.co.jp

あさ・くる

令和1年度活動報告書

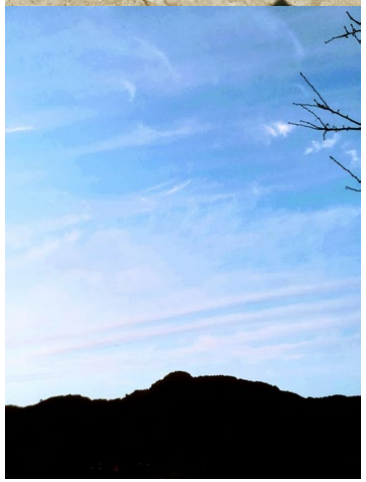
多角的なアプローチを通して
地域コミュニティの再構築をめざす事業

1　こども自然スコーレ
2　山間地の活力を支えるサポーター育成事業
3　こどもサポーターネットワーク野外会議

令和1年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

いつかぼくが
ここから出て行くときのために
いまからぼくは遺言する
山はいつまでも高くそびえていてほしい
海はいつまでも深くたたえていてほしい
空はいつまでも青く澄んでいてほしい
そして人はここにやってきた日のことを
忘れずにいてほしい

谷川俊太郎「生まれたよ　ぼく」より



Contens

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 事業目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 事業内容・実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

こども自然スコーレ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

山間地の活力を支えるサポーター育成事業
「Mountain Mountain Do ?!」・・・・・・・・・・・・・・ 14

子どもサポーターネットワーク会議 ・・・・・・・・ 19

4. ふりかえり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
5. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

1. はじめに

2017年九州北部豪雨水害を機に立ち上げた「あさ・くる」の活動が、2年目を終えようとしています。今年も様々な人に、出来事に、声に、出会いました。

あの夏から2年9か月。傷を受けた山肌は少しずつ緑で覆われ、道路や住居の復旧はずいぶんと進みました。しかしながら、目に見えない不安は地域に様々な影を落とし、精神疲弊は思考力を低下させ、人と人、自然、社会とのつながりを希薄にしていく傾向は否めません。

一方、その分断を新たにつなぎ直そうとする動きもまた、芽を出し、根を張りつつあることをここに記したいと思います。

校庭の桜が、今年も美しく咲きました。麻氐良山は、今日も青々としています。こどもたちの足音に、大地は喜び、風が起き、笑い声が里を包みます。
何千年と続いてきたであろうこのいとなみを尊ぶ日々が、これからも続きますように。

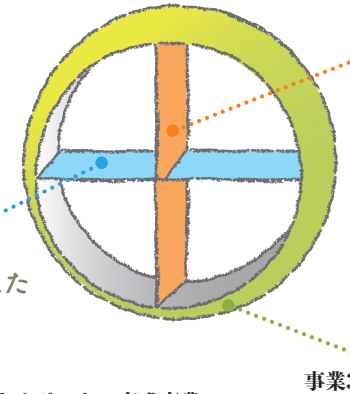
最後に、本事業への助成を賜りました独立行政法人福祉医療機構、そして、ご協力いただいた皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。

2020年3月
あさ・くる　代表
松本 亜樹

2. 事業目的

地域コミュニティの再構築

2017年7月の九州北部豪雨水害を機に加速化した様々な問題により分断が進みつつある地域コミュニティ地域を、「こども」を核とした多世代交流（縦軸）と、共通の課題を抱えた他地域との連携（横軸）という立方体アプローチによって再構築することを目的とする。



コンセプト

Soil …… 自然との関係性
Soul …… 精神との関係性
Society …… 社会との関係性
＝
3S（Trinity）を紡ぎ直す

3. 事業内容・実績

こども自然スコーレ

2018年からスタートしたこども自然スコーレ。
今年も「あそぶ・かんじる・そうぞうする」を大切にした体験活動を毎月行いました。

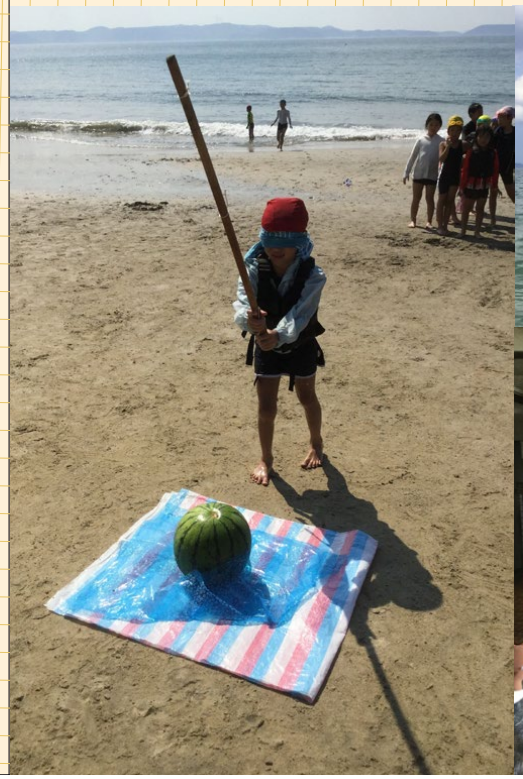
＜基本姿勢＞

●体験から学ぶ。
（何をするかよりも、なぜ？どうやって？を大事に。）
●異年齢の集団の中で育つ。
（「異なる」ことが可能性をひらく。関係性の変化が子どもを成長させる。）
●なにをしてもいいし、しなくてもいい。それを、「自分」が決める。
（“わたし”が“わたし”であることを、最大限に尊重する。）

■期間　2019年7月～2020年3月　計10回開催
■場所　旧志波小学校をベースに、糸島・うきはへ1dayトリップもあり。
■対象　杷木小学校児童　延べ400名参加
■講師・サポート
宮崎文彦（ひとのえん）、菊地明彦、中原裕平、金堀優作、中村富美夏、中村鷹之輔、加藤千夏（akarizm）、熊谷祐二、菊地好都美、なかもとまさお（カリンバの森）、浦田剛大、浦田朝夏、尾花光（イビサ・スモークレストラン）、古川隆邦（アグリフィールズ合同会社）、後藤達也、金堀尚美、柳孝夫、碓井三智子、松本亜樹
■協力　志波地域コミュニティ協議会、杷木地域コミュニティ連合会、杷木小学校、朝倉市教育委員会、初潮旅館、末金製材所、杉岡製材所、高木薪づくりプロジェクト（師岡知弘）、岡部達彦、小嶋観光

1　7月13日（土）　はじまりの日／保護者会　旧志波小学校

2　7月31日（水）　海スコーレ　糸島・鹿家海岸



3.4.5 9月23日(祝)手仕事＆音楽　10月26日(土)手仕事＆流星ボール作り　11月9日(土)手仕事＆ダンス

旧志波小学校

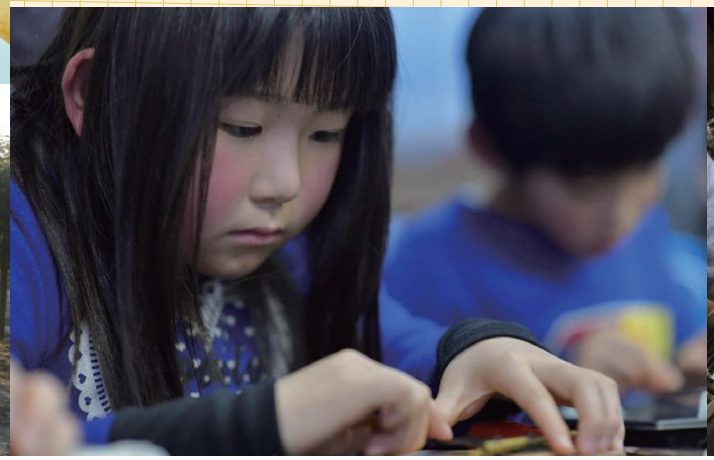
大人スコーレで
柿のミツロウキャンドル
を作りました

6 11月17日(日)「志波の市」

旧志波小学校

7 12月22日(日)流木カリンバワークショップ　旧志波小学校

大人スコーレでX'mas
ケーキを作りました



なぜ、流木カリンバを…？

2017年7月5日。記録的な大雨により、約1065万㎥の土砂と、約21万㎥の流木が発生しました。死者行方不明者42名の人的被害、住宅や農地も多くの痛手を受けました。

高木薪づくりプロジェクトの師岡知弘さんに流木をいただく

「難を受けた木は、難除けになる」

と、古(いにしえ)の人々は考えたのだそうです。
自然と向き合い、自然と共に生きてきた人々ならではの思想だと感じます。
この言葉に込められた叡智を、まるで水の流れのようなカリンバの音としてこどもたちに届けられたら素敵だな…と思い、流木からカリンバを作りました。
多くの人に、多くの想いに、助けられました。

朝倉市・末金製材所にて、流木を製材していただく

ワークショップの講師は、「カリンバの森」なかもとまさおさん

みんなのお守りとなりますように…

動画をチェック！ https://asakuru2017.wixsite.com/asakuru

8 1月19日(日)山スコーレ　イビサ・スモークレストラン(うきは市)

尾花光さん
(イビサスモークレストラン)

薪の火で巨大パエリヤ完成！

9 2月24日(月・祝)　防災ワークショップ　旧志波小学校

古川隆邦さん
(アグリフィールズ)

防災ブレスレットを作りました

10　3月21日(土)　麻氏良登山

麻氏良山(杷木志波)

こどもの声

スコーレでは、海に行ったり、イビサに行ったり、普段はできないことをたくさんできました。友だちの意外なところを知ることもできました。
年下の子とか、学校では話さなかった人とも友だちになれたことがうれしかったです。
みんなのびのびしていて、わたしものびのびできました。
志波小学校にくると、やっぱりなつかしく感じます。特に図書室が好きだったので、またあそこで本が読みたいなぁ…

H

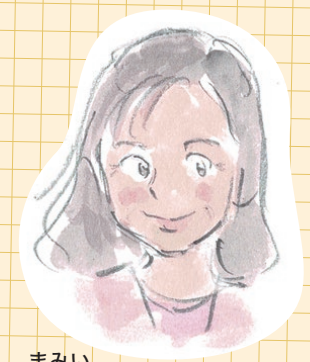
Y

ここは自由だなぁ…と思います。
みんなと話したり、外で思いっきり遊んだり、自然のものを使っていろいろ作ったりできたのが楽しかったです。他の学年の子と遊べたのもよかった。
スコーレとは、自然を学んだり、楽しんだりするところ。
自然の中にいると、呼吸がしやすいし、きれいだな…と思います。
ここに来るようになって、いろんなことに関心を持つようになりました。

保護者の声

- 「とにかく楽しかった！」満面の笑顔。帰るとその一言です。
- 集団での活動に参加することを楽しめるようになったかなと感じています。友だちのことを思って協力したり、助けてもらったり、学校での交流の輪も広がっています。
- いつも親以上に子どもたちが楽しめる企画を考えて下さり、ありがたいかぎりです。
- スコーレで体験したことは、本人に確実に蓄積されていると思います。防災ブレスレットを作ってきた日は、使い方を私たちに教えてくれました。そこから、家の備蓄の話をすることができました。
- 家庭では体験できないことを体験させていただきありがとうございました。今の時代、違う年の子と遊ぶことも少なく、外で遊ぶことも少なくなっています。そうしたことを経験させていただき、新しいことも教えていただいたこと、ありがたいです。
- 以前は、親に頼ることが多かったのですが、最近は、少しずつ、とりあえず自分でやってみようとする姿がみえるようになりました。送迎も親を頼らず、自力で自転車でいくほどたくましくなりました。

スタッフの声



まみい

子どもたちはやさしい。山も川も海も風も、いつも やさしく見守ってくれました。
1年間ありがとう。
でも、ときどき きびしいのが自然と子ども。
きびしいところも知っとかなくちゃね。
もっと知りたかったな。
ねぇ、もっとぼうけんしたくない？
では、また つぎに。

タカ

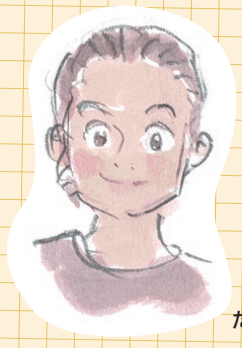
この１年間、一緒に遊んで、みんなの「新しいものを作り出す力」にびっくりしました！
僕が考えつかないようなものをみんなが作り出して見せてくれるのが楽しみで、いつもワクワクしてました！いろんなものに興味を持つことの楽しさと、大切さをみんなから教えてもらって、いま僕も「まずやってみる」を意識して、いろんなものにチャレンジしてます。

あっきー

スコーレのみんなは、心がワクワクすることを見つけて夢中になり、楽しむ天才だと思いました。うれしいときには「いえ～い」と大きな声を出して喜ぶ。悲しい時には、涙を流す。一つひとつの感情が、大きくなるステップ。そんなハートをずっと大切に♬
幸せな時間を一緒に過ごさせてもらいました！
本当にありがとう。

ふみ

自然スコーレで２年すごしました。子どもたちからは先生ではなく友だち、５年生くらいに思われています。
それがいちばんうれしい。
ウイルスのことでたくさん大変なことがありますね。
私が前と変わったのは、これからは自分たちで、家族や友だちや苦しんでいるひとたちのために、畑で食べるものを作ったり川で魚をとったり、そんな力が必要になるなあと思うようになったことです。
スコーレのやさしくてあたたかいみんなとたくさん勉強してそれを始めようと、強く強く思っています。



たかお

子どもたちを見ていると、自分が過去にやり残したこと、忘れていたことを思い出す。何とかその分を取り戻せないものかと考えるのだが、そのうちに「子どもたちが今やっているから自分がやり直さなくてもいいや」という気になってくる。そうして、子どもたちに混ざってそれぞれがそれぞれのことをやっているうちに一年が過ぎました。

ごっちん

こども自然スコーレをはじめて2年がたちました。
低学年と高学年が一緒に遊び、ものを作り、考え、楽しむ姿を見て、子どもはすべてを与えなくても、自分で考え想像し創り上げる力があると改めて感じました。
大人は過保護にならず、子どもの力を信じて任せることが必要と思いました。

みちこ

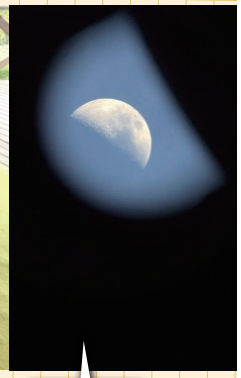
大人スコーレに一緒に参加して、無心に手を動かす母たちの姿が印象的でした。
作品を誰かに褒められるとすごく嬉しいのは、大人も同じですね。
いえ、大人こそ、こんな時間が必要かも…

山を楽しむ。山で楽しむ。山と楽しむ。5 days !
共通の課題を抱えた地域と連携しながら、課題解決への道を探ることを目的とした
「山間地の活力を支えるサポーター育成事業」として、伝統文化の伝承が困難に
なりつつある山間地を盛り上げ、新たな価値観を創出するためのイベント
「Mountain Mountain Do ?! 」を行いました。

■開催日　2019 年 8 月 7 日(水)～ 11 日(日・山の日)　5 日間
■場所　　ひめはるビジターセンター　(うきは市浮羽町新川 3025-1)
■来場者　延べ 200 名
■講師・サポート
加藤千夏 (みつろうキャンドル)、古賀龍二 (星空観察)、ちえちひろ (紙芝居ワークショップ)、平川ミサヱ (インタビュー協力)、高浪昌登 (ニホンミツバチの話)、福田亮祐 / 犬土瞭 (カホンワークショップ)、中原裕平(グリーンコード)、宮崎文彦(山のあそび場)、林亮輔(ポン菓子)、河野美穂(hou、山のライブ)、岸川恵介 (会場デコ、ファイヤーダンス)、オータユーキ(うきはのあん)、鈴木貴文(うきはのあん)、尾花光(イビサ・スモークレストラン)、後藤達也、金堀尚美、金堀雅裕、柳孝夫、碓井三智子、松本亜樹
■共催　NPO うきはのあん
■後援　うきはブランド推進課
■協力　山里ひめはる連絡会、るーこぼん、たこ焼き三ちゃん、awauta brownrice、里楽、日野円、青柳美恵、ケータリング・ケータロ、イビサ・スモークレストラン、BIG PINK、花田博美

8月7日(水)　みつろうキャンドル WS、星空観察会

天然のミツロウシートで作るキャンドルづくりワークショップ　by akarizm



星空観察会

8月8日(木)~8月10日(金)　ちえちひろさんと作る「山の小さな紙芝居ワークショップ」

絵本作家・ちえちひろさんを講師に、紙芝居ワークショップを開きました。
8 日は、地元の平川ミサヱさん(94 歳の現役農家さん！)、高浪昌登さん(ニホンミツバチ養蜂家)にインタビュー。そのお話を基に、その後 2 日間でストーリーを考え、紙芝居をつくりました。
出来上がった紙芝居は、11 日の山のステージで全員披露しました。

8月11日(土)　山の夏まつり！　　ひめはるビジターセンター

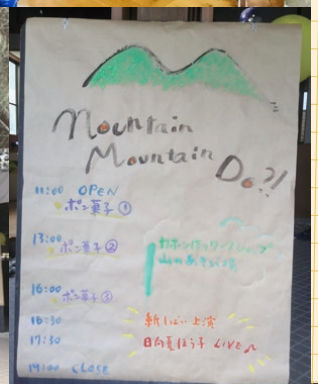
カホンづくりワークショップ

カホンとは、ペルー発祥の打楽器。木材は間伐材を使用しています。

山のあそび場

ポン菓子実演＆無料配布

紙芝居披露



山の LIVE♪　日向夏ほう子(hou)

Topic!

宮崎千絵さん（ちえちひろ）作の紙芝居「たごもりの盆」が、第20回手作り紙芝居コンクールの最優秀賞（加太こうじ賞）を受賞しました！
時代と共に消えようとする文化や伝統行事の継承は、地域を超えた課題です。
「紙芝居」を通して、子ども達、いえ、年齢を問わない多くの方々に伝え語ることの中に、継承の新たな形を見出した思いがします。

野外

子どもサポーターネットワーク会議

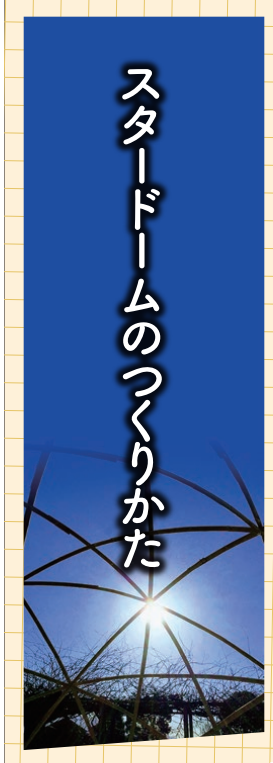
「子ども」「遊び」「自然」をキーワードに活動している人、関心のある人が集い、
＜遊ぶ＞＜食べる＞＜語る＞を尽くした一日。
いざという時に役立つスキルを学び、野外で食べる豊かさを感じ、最後は輪になり、
それぞれの思いを語り合いました。

■期日　2020年2月22日（スタードーム準備）、23日（野外会議）
■場所　旧志波小学校（朝倉市杷木志波4669-1）
■参加者　子どもや自然と関わりのある団体スタッフや個人。延べ80名。
■講師・サポート
古川隆邦（スタードーム、ペットボトルピザ、段ボールオーブンWS）、尾花光（野外調理）、宮崎文彦（プレイワーカー、スタードーム）、碓井三智子、金堀優作、金堀尚美、菊地明彦、後藤達也、中村富美夏、中村鷹之輔、柳孝夫、松本亜樹
■協力　志波地域コミュニティ協議会、アグリフィールズ合同会社、イビサ・スモークレストラン、AKS（朝倉キッズサポーター）、ひとのえん

2月22日(土)スタードーム準備 23日(土)ドーム組みたて　旧志波小学校

わずか、竹５本で作る竹のドーム。
設計の基を作ったのは、バックミンスターフラー博士。「地球は生命が暮らす有限の空間」だと考えた彼は、最小の資源から最大の効果を生みだすための数々のアイデアを提案しました。環境資源は有限。今の暮らしはその『あたりまえの理』を見失いつつあるように感じます。「有限」だからこそ生まれる謙虚さを基とした知恵、修繕という技術を、この手に取り戻し、次世代へとつないでいきたいですね。

スタードームのつくりかた



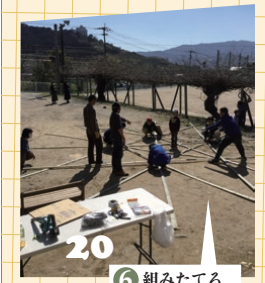
❶ 山に入る。地元の氏神様にごあいさつ

❷ ノコギリで竹を切り出す。倒れる時に注意！

❸ 風の音、子どもの声が響く

❹ 切り出した竹を竹割り器で分割

❺ ささくれを処理し、穴をあける



❻ 組みたてる

❼ 完成！

＊スタードームは解体して保管。竹がもつ限り、いつでもどこでも何度でも組みたてることができます。

2月23日(日)　野外会議　旧志波小学校

遊ぶ　遊びこそ学び！
いざという時にも役立つペットボトルピザと段ボールオーブンを作りました。

食べる

朝倉の食材を使ったスープパエリヤは、薪火で野外調理。おいしくないはずがない！
ピザも焼きあがっていい感じ。

語る

最後はスタードームの中で輪になって。
自主保育、不登校支援、こども食堂、居場所運営、被災地支援・・・。
いろんな形で、いろんな場所で、いろんな世代が子どもたちと関わっていることを、こうして顔を見ながら相互に知り合えるだけでもエンパワメント。
コミュニケーションは言葉だけではないことを体感した一日。その共通体験を経て生まれてくる言葉には熱量があります。
みんな実にいい顔でした。

参加者の声

- 自分の現場の子どもたちの顔が浮かんだ。今日のことを早く子どもたちと実践したい。
- この小学校の雰囲気、家庭科室こんなんだったなぁ。小さいころに子ども会でこんな風にいろいろ経験させてもらっていたことを思い出すことができた。懐かしくなった。
- 豊かな時間だった。我が子と経験できてよかった。
- 朝倉を知れてよかった。近くても意外と知らなかった、もっと交流したい。
- よくわからないままにパートナーに連れてこられたが、思いがけず素敵な体験ができた。
- 流れの中で仕切りがなかったのにうまく流れる動きを取られていたことが最も印象的であり、私自身もそのことがとっても心地良かったです。すごく見習いたいと思ったことです。
- 大人になった時に自分もこうしたつながりがあったらいいなと、すごく感じました。

スタッフより

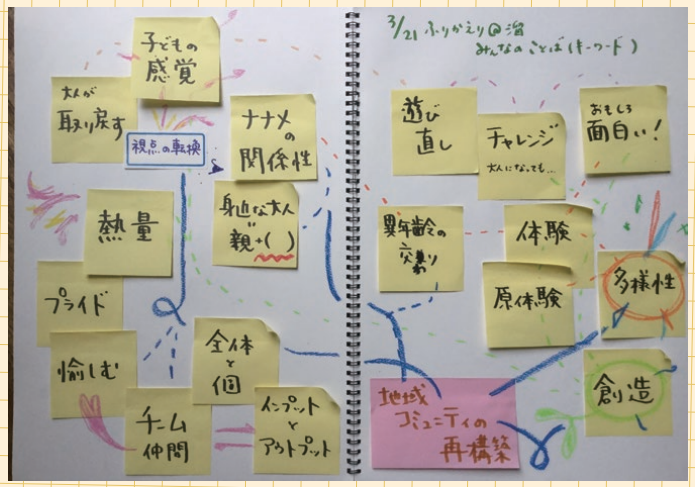
予定通りにいかないことこそ、子ども活動の醍醐味である。
災害時にも役立つスキルを提供するねらいはあったものの、実際COVID-19ウィルスの流行渦中の開催となったことで、立体的感覚で受け入れられたと感じる。災害時にいかにして豊かな暮らしの工夫をするか、その重要性をリアルに感じることができた。
今日の体験を「懐かしく感じた」と表現してくれた大学生。その懐かしさとは普遍性につながるのかもしれない。私たちが、いま行っている子どもとのかかわりは、彼らがいつか懐かしく思い出してくれるための土台体験なのではなかろうか。

ふりかえり（評価ミーティング）

2019年度に行った３つの事業が、団体の目的である「地域コミュニティの再構築」へどうつながったかを、2回に分けて、スタッフとふりかえりました。

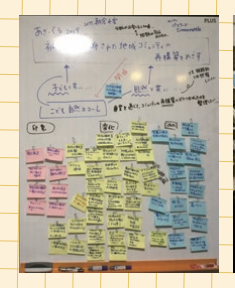
1

2020年3月21日
「なぜ、私が活動に関わり続けているか？」をそれぞれの言葉で語り合いました。



2

2020年3月23日
NPO法人ドネルモの宮田智史さんにファシリテーターをお願いし、
＜印象を一言で紹介すると？＞＜関係者や参加者の変化＞
＜これから実現したらいいなと思うこと＞を出し合いました。



この評価プロセスを通して、私たちの事業が行ってきたことは、**直接の対象者（子どもやイベントの参加者）の変化を生むのと同時に、関わるスタッフや関係者、地域の変化にもつながっている**ことを確認できました。

「変化」を多角的にキャッチ！できる感度が大事だよね。

それを記録し、共有することも大事！これからは、もっと積極的に周囲（保護者や地域の方々）にフィードバックしていこう！

おわりに

2年間の活動を終えて気づいたことは、「復興」とは、**災害を通して見えてきた課題に対して、人間に内在する自然性や感性、文化や知恵や記憶をよみがえらせながら、創造的に働きかけていくプロセス**だということです。

繰り返される自然災害、そして、COVID-19。『あたりまえ』はないことに気づかせてくれる現象が次々と引き起こる中、どんな状況でも、どっこい生きる図太い生命力と回復力（レジリエンス）が問われていると感じます。互いの顔が見えること、食といのちとが直結していること、必要なものをこの手で作り出せること、困った時には「助けて」と言える関係があること。災害を経験したこの地で、子どもたちと体験していることのすべては、これからの時代を生き抜くためのセーフティネットといえるのではないでしょうか。

これからも、子どもとともに、自然に倣いながら、小さくとも確かな歩みを進めていきたいと思っています。引き続き、あたたかいご支援とご協力をよろしくお願い致します。

Information

「あさ・くる」は、九州北部豪雨水害を機に立ち上がった団体です。「100年後の子どもに誇れる故郷づくり」を目指して活動しています。会員募集中＆カンパ大歓迎！

正会員**5,000**円　賛助会員**1,000**円　カンパ・寄付金1口**1,000**円～

振込先
◆ゆうちょ銀行間の振込　記号**17450**　番号**83317161**
◆他行からの振込　店名**七四八**　口座番号**8331716**
名義人　あさ・くる（アサ クル）

住所　福岡県朝倉市杷木志波2040－2
電話　090-5477-0322
E-MAIL　asakuru2017@yahoo.co.jp
https://asakuru2017.wixsite.co./asakuru